

(別添)

## 世界の人びとのための J I C A 基金活用事業・業務完了報告書

1. 業務の概要：	
(1) 事業名	「アルパカプロジェクト～ボリビアと在日ボリビア人女性の元気、生きがいのためのビジネス創出」
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人 日本ボリビア人協会
(3) 実施期間	2020年1月20日～2021年4月19日
(4) 実施国	ボリビア多民族国・日本
(5) 活動地域	ボリビア（ラパス県）・日本（三重県）
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ボリビアの貧困層の生産するアルパカ毛を日本で製品化し、日本でのアルパカ製品販売を拡大、ボリビアの貧困層の収入を増やして、生活水準を向上させたい。</li><li>・在日ボリビア人の抱える問題（高齢化による就労場所の減少、生きがいづくりなど）を改善したい。</li></ul> <p>以上二つの理由から、この事業がはじまった</p> <p>②活動の目標：</p> <p>ボリビアでアルパカ毛を生産する貧困層のコミュニティと、アルパカ毛の日本での製品化・販売拡大に向けた協働体制を構築し、現地でアルパカ毛を生産するグループの生活向上に貢献する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アルパカ毛の製品化・販売の過程において、在日ボリビア人に就労機会を提供することにより、生きがいを創出する。</li></ul>

## 2. 業務実施結果：

### (1) 実施した内容

#### 【実施内容①】

ボリビアへ直接出向いて、アルパカ毛糸の生産者を交え品質、生産環境、生産規模を調査。日本では地域住民のアルパカに対する認知度を知り、ターゲット年代の趣向に対するイメージをつかみ、それらの結果を踏まえ多くの方が購入しやすい商品を製作するため、10個の質問からなるアンケートを、3グループ、作業員(10名)、販売者(10名)、消費者(80名)、合計100名に対して紙ベースで実施し集計した。

#### 【実施内容②】

在日ボリビア人による編み物研修の参加者募集を行った。10月に募集用チラシを作成し、当団体のFacebookやSNS等を通して、20名の参加者を募った。また、在日ボリビア人による編み物研修に向けて研修講師に編み図作成及び見方のレクチャーを依頼、在日ボリビア人による編み物研修及び、パッケージ、タグ付け研修を合計14回予定していた。

### (2) 実施成果：

①アンケートの実施により、好まれる商品の色、形、肌触り等を知ることが出来き、サンプルの作成時反映にさせた。

②編み物研修には18名の応募者があったが、新型コロナウイルスの拡大により、研修で使用を予定していた会場の管理課からの人数制限の要請により、参加者を10名に絞った。チラシにはオンラインでの研修も可能と記載していたが、参加者には説明済みも実際には講師も含め多くの生徒がオンラインで参加出来る環境になかった為、断念した。チラシへの記入以前にオンライン環境の調査が必要であった事、今後はオンラインでも事業が行えるようにすることが課題として残った。研修講師に編み図作成及び見方のレクチャーを依頼したことで、最初は全くの素人でどこから何を見ればいいのかわからなかったが生徒も含め、先生に分かりやすく教えて頂き、全員各自で見ることが出来るようになったのは大きな成果であると考え。またスケジュールの確認を行ったが、パンデミックの影響により全14回の研修を編み物研修10回にし、ラッピング/タグ付け研修を2回に変更を行った。各生徒にスキルのレベルに幅があり、商品自体の個数は少数しかできなかった。

### (3) 得られた教訓など：

全体を通して、アルパカの毛糸に合う編み棒を探すのにすごく苦労したり、事前調査の甘さが出たり、編み物研修で出来た商品の個数が少ない等の改善点がある。ただ一方で全体的に商品の品質は高く、研修参加者からは実施回数が少ないと声上がるなど、生徒自身が進んで編み物に取り組み、今後につながるビジョンを得て、いい雰囲気の中で取り組めたのではないかと感じる

### (4) 今後の活動・フォローアップの方針：

今後は作った商品は出来るだけ販売網を広げ、売っていきたい。そのためには、広報に力を入れ、各生徒のスキルアップを図る活動を検討する。

## 3. その他(エピソード・感想・写真など)

### (1) 活動中のエピソード・感想など

今回の活動を通して研修を行うに当たり編み棒・編み図の用意をする必要があり、アルパカの毛糸に合う編み棒を探すのにすごく苦労した。結局それ専用の物を見つけることが出来ず、百元ショップで購入した編み棒で代用した。そのほか、新型コロナウイルスに対する懸念はあったものの、参加者は喜んで参加してくださっており、できる限り休まないように努めてくださった事は嬉しく感じた。そして何よりも研修を通して今までにない知見を得たことで参加者が自信を得ることが出来た事もすごくよかったと感じた。

### (2) 活動の写真



### **(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点**

今回の事業を通して、ビジネス的、客観的な知見だけでなく、生産者側と消費者側のニーズを知り、それらを今後の行う事業に活かすことが出来ると考える。また、まだまだ途中ではあるが在日ボリビア人の人たちが実際にどのように雇用困っているかを知ることで、雇用の手助けになる色々な事業が行えるイメージがわいて当団体の一歩成長につながったと感じた。そして一番は企業、日本の行政との信頼関係を気付くことができた。在日ボリビア人の高齢者に対して研修をしたことで自信をとりもどし、視野を広げることが出来たこともよかった点の一つと言える。